

令和4年（2022年）3月定例議会本会議（3月24日）

基本構想・基本計画策定特別委員長（最終審査）報告

ただいま議題となっております議案のうち、基本構想・基本計画策定特別委員会に付託されました議案第57号 横須賀市基本構想の改訂及び横須賀市基本計画の策定について につきまして、委員会における審査の経過と結果を報告します。

委員会は令和2年5月14日の本会議において設置され、既に令和3年3月定例議会において、それまでの審査の経過と結果について中間報告を行ったところであります。

その後、延べ7回会議を開き、パブリック・コメントの結果や総合計画審議会での議論など、策定状況の報告を受けながら審査を進めてまいりました。

まず、令和3年3月定例議会での中間報告以降の主な質疑を申し上げますと、「核兵器廃絶・平和都市宣言」を行った市として未来像の中に「平和」というキーワードを盛り込む必要性、全庁でのデジタルトランスフォーメーションの推進に当たり将来を見据えた視点で発言できる職員の有無、未来像の実現に向けた各部局における今後の人材育成やICTを活用した業務改革等のビジョン、環境問題

に対する「自分ごと」の意識をより強く持てるよう記載内容を見直す必要性、エネルギー効率の向上など環境の視点を踏まえて産業振興に取り組む必要性、公園の整備及び活用に当たり行政の観点だけでなく地域のニーズを勘案して実施する必要性、新たな基本構想・基本計画における教職員の多忙化解消に向けた方策に対する認識、福祉の各分野における人材の育成及び確保に対する支援策を明記する必要性、教育分野における横須賀らしさや横須賀の強み、公共交通網の再編に対する考え方、防災に関して教育だけでなく訓練が非常に重要であることが分かるよう記載内容を見直す必要性、市の目指す「誰も一人にさせないまち」の意味を市民の共通理解とするため基本構想に記載する必要性、未来像が凝った文体や巧みな言い回しで表現された他都市における行政計画の事例、市の目指す方向性が誤解されないよう「稼げる自治体」の定義を記載する必要性、基本構想・基本計画の概要版作成に当たり文字の大きさや重要部分をインパクトのある表現とする必要性、分野別未来像の理解を深めるため資料編のデータ集に専門用語の解説等を記載する必要性、新たな基本構想・基本計画を周知するに当たり対象者ごとに説明を工夫する必要性、基本構想・基本計画の外国版の作成に関する検討の有無についてであります。

これらの質疑等を踏まえ、3月1日の委員会において、討論はなく、採決の結果、議案第57号は、賛成多数で原案どおり可決すべきものと決定しました。

なお、今回の策定過程において、執行部から審査のたたき台となる草稿が本委員会に提出される前に、委員間で精力的に協議を行い、市民の代表である市議会としての意見・要望事項を取りまとめて市長に提出したことは、非常に特徴的なことでした。

また、多くの市民の皆様から御意見をいただいた中で、特に小中高生を対象としたアンケートの実施やワークショップの開催など、未来の横須賀を担う若い世代から多くの貴重な御意見をいただいたことは、大変有意義で参考になりました。

この場をお借りして、円滑な委員会運営に御協力いただきました委員の皆様、様々な機会を通して貴重な御意見をいただきました市民の皆様、策定に当たり御尽力いただきました総合計画審議会委員の皆様、並びに執行部の皆様、特に部局を超えて議論を深め、今後、この基本構想・基本計画に掲げる未来像の実現に向け中心になり進めていただけるであろう市内プロジェクトチームの皆様に対しまして、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

以上が、審査の経過及び結果であります。これにより本委員会

は、以下の意見を申し上げ、付議事件に対する審査を終了します。

新たな基本構想・基本計画「YOKOSUKAビジョン2030」の策定に当たっては、未来のあるべき姿から逆算し、その実現のために現在取り組むべき事柄を検討するバックキャストिंगの手法により、市民が希望を持てるような横須賀の未来像とそこに向かって進むべき方向性について、市民、行政、市議会が各々の立場から検討を重ねてきた。

人口減少や少子高齢化の進展、加速度的に進化するテクノロジー等、市民の暮らしを取り巻く環境は大きく変化している。

また、本委員会が設置されてから2年が経過しようとしている今も、新型コロナウイルス感染症の影響はとどまることなく、日々の生活や将来の先行きが見えない状況に不安を抱えている方も少なくない。

今後、より一層多様化・複雑化する市民ニーズや様々な地域課題への対応が求められる中、希望ある豊かな横須賀を目指すこのビジョンを多くの市民と共有し、共に協力しながら魅力あるまちづくりを進めていくことが重要である。

よって、本件議決に当たり、本委員会の次の意見に留意するよう強く要望する。

1 多くの市民にこのビジョンを見ていただけるよう周知方法を工夫するとともに、積極的な情報発信に努められたい。

また、市民がこのビジョンに共感し、横須賀のまちづくりに一緒に協力したいと思っただけけるようにするため、このビジョンに込められたまちづくりに対する市の思いがしっかりと市民の心に届くよう伝え方にも配慮されたい。

2 職員の縦割り意識を一掃するとともに、部局間の連携をより一層推進し、オール横須賀の精神を忘れることなく、職員一人一人がこのビジョンに掲げる理想のまちづくりを実現されたい。

3 今後の分野別計画の策定や各種事業の実施においても、バックキャストの視点を持つよう努められたい。

4 実施計画や各種事業の評価・検証に当たっては、常にこのビジョンに掲げる未来像とその実現に向けた政策の方針に立ち返り、効果的に実施されたい。

5 社会情勢の変化が激しく、将来を見通すことが困難な状況であっても、市の未来像「変化を力に進むまち」の理念を心に刻み、変化を恐れることなく、迅速かつ果断な意思決定により、まちづくりの推進及び地域の課題解決に取り組まれたい。

以上で報告を終わります。